

教員海外研修報告

主体性を重んじるドイツの教育 — フライブルク大学・教育施設訪問の報告

教育実践総合センター 准教授 岡田珠江

平成 25 年度三重大学国際交流事業の助成を頂き、6 月 20 日から 1 週間程ドイツ、フライブルクカトリック大学^{*注1}とフライブルク市の教育施設を訪問して参りましたので、その報告を致します。

まず、今回の国際交流の背景について少し説明致します。教育実践総合センターとの交流は、フライブルクカトリック大学がドイツ学術交流会 DAAD から国際交流資金^{*注2}を得た 2011 年度に開始され、今年が 3 年目になります^{*注3}。本年度は 5 月にフライブルクカトリック大学の大学院生 1 名が研究 (研究題目: ト라우マとトラウマセラピーの国際比較) のために 3 週間程教育実践総合センターに参訪し、そして今回私教員 1 名と現職教員の内地留学生 2 名がドイツを訪問致しました。ちなみに、今年度は 8 月下旬から 1 か月程フライブルクカトリック大学の学部学生 1 名が、さらに 10 月末と 12 月にはフライブルクカトリック大学の教員各 1 名がそれぞれ約 1 週間程度教育実践総合センターを参訪する予定です。



フライブルクカトリック大学

さて、フライブルクはドイツ南部(フランスとスイスに近く)に位置し緑が美しく、人口約 22 万人のうち約 3 万人が学生という大学の街でもあります。私たちは短い日程の中に多くの予定が組まれ、大

変慌ただしかったのですが、そのような中でも移動中に見る車窓の景色や公園の花々、食事場面、ちょっとした日常のやりとりにドイツの風を感じる旅になりました。

私たちは日本の小中学校の紹介や特別な支援を要する子どもに対する教育システムに関するプレゼンテーションをフライブルクカトリック大学で行い、大学内施設を見学した他、以下の 7 か所の教育関連施設を訪問致しました。

1. Zentrum Insel (地域で芸術療法を行っている私立心理支援施設)
2. Freie Schule Dreisamtel (モンテッソーリ教育を行っているフリースクール)
3. Vigilius Grundschule, Vigilius II Werkschule (公立小・中学校)
4. Freiburger Strassenschule (ストリート生活の若者のための自立支援施設)
5. Maria Montessori Grundschule (モンテッソーリ教育を行っている私立小学校)
6. Kinder-und-Jugendtreff Haslasch (公立の放課後の児童支援施設)
7. Staudinger Gesamtschule (公立中学校)

いずれの教育施設においても興味深い事柄がたくさんありましたが、ドイツの教育現場を視察見学して大変感心したことは、児童生徒も教師も個々の主体性が重んじられているところです。具体的に小学校の様子で述べますと、ドイツの学校制度では小学校は 4 年間ですが、訪問した学校ではクラス替えもなく、担任も変わりません。(しかし保護者が申し出ればクラスを替えることは可能です。) また、教科書や教材は担任の裁量で選択され、野外活動等の取り入れも担任次第です(学年や学校単位で決められ

ていません)。日々の学習スケジュールが明示されており、個々の学習の進度によって異なる教材に取り組む様子も見られました。授業時間中、日本では先生が机間巡視をするのをよく見かけますが、ドイツでは児童生徒が質問したいときには手をあげたり先生のところまで尋ねに行ったりします。突然の来訪者であった私たちにも積極的に質問をしてくれました。各学級は 2 つの部屋を使用していて、通常は広い部屋が全体の授業で使用されますが、個々に支援が必要な子どもは、隣にある少し狭い部屋で個別に対応されていたり、いわゆる「取り出し」授業として少人数で芸術療法(描画、ドラマ)や言葉の教室での活動を各々専門家(非常勤)が行ったりしています。



公立小学校の授業風景

また、ストリート生活をしている若者の自立支援施設(ドイツ国内でも唯一の施設)や公立の放課後の児童支援施設では、スタッフであるソーシャルワーカーが最低限の規則や活動内容の提供・支援(例えば描画・音楽・演劇・運動等の芸術創作活動ができるような部屋や材料の準備)をするものの、来訪者自らの主体的な活動を大切にしている様子が見られました。

このような主体性の重要視は、実はその行動がすべて個人の責任で行われることと表裏一体になっています。先にクラス替えがないことや教科書や教材が担任の裁量で選択されることを述べましたが、裏を返せば小学校 4 年間の教育を担当が責任を持って指導するという事です。1 年という時間単位で見れば多少の教科の進度の遅れがあっても構わないけれども、4 年間終了時にはきちんと終えなければなりません。一方、学習で十分に習得できなかった子どもは小学校でも留年します。また、小中学校の児童生徒用ロッカーはすべて鍵がついており、持ち物の管理は児童生徒個人の責任ですし、学校の教室、トイレに至るまで全ての施設が施錠され、教師が管理しています。

これらのドイツの教育に見られる日本の教育との差異は、「違い」であってどちらかのあり方が「間違い」である、あるいは「正しい」ではありません。文化的背景があるので簡単に述べることはできません。しかし、違いを目の当たりにすることによって、当たり前になっている自国の教育の在り方を改めて見つめ直す貴重なヒントや気づきが得られるように思います。このような経験を私は学校教育に関わる者にとってとても貴重なものと思っています。そして経験した事柄は機会を見つけて伝えていきたいと考えています(7 月 30 日開催の第 30 回 iCERP 研究会で発表しました)。

最後に、その他今回の訪問で学んだことの幾つかを紹介致します。訪問した教育関連施設で出会ったソーシャルワーカーの方々にはフライブルクカトリック大学出身者でした。大学における研究や教育が、卒業生の活躍している機関と様々な側面で連携して行わ

れており、連携のモデルになる素晴らしい形態であると思えました。また、交流にあたってはフライブルク大学国際交流担当教授や事務担当の方（偶然ですが四日市出身の日本人）のコーディネーターがあり、さらに5月に留学した大学院生の側面的支援もありました。助成金を頂くにあたっては国際交流委員会の先生方にもご心配を頂きました。教育実践総合センターで行っている国際交流は協定もなく、細々と行っているものですが、たくさんの方々の温かい心の交流と下支えがあり、国際交流の原点に通じる学ぶべき事柄であると考えます。改めて感謝の意を表したいと思います。どうもありがとうございました。

***注1**

フライブルクカトリック大学 (Katholische Hochschule Freiburg / Catholic University of Applied Sciences Freiburg) は、1971年に設立され国に認定されたカトリック系の大学である。国内外からの約1400名の学生が在籍しており、福祉事業、健康管理、インクルーシブ教育、運営と倫理の分野で、学士号・修士号を授与している。大学の特徴は、Institute for Applied Research, Development and Further Educationに属する7つのセンターが、応用を目指す（実践的）研究を多く行っていること、また多くの大学と提携し、国際的であることである。特に

インターナショナルマスターコースは他国の多くの大学と協定を結び、国際交流を推進している。（フライブルクカトリック大学のホームページ他より）

***注2**

ドイツ学術交流会 DAAD (Deutscher Akademischer Austausch Dienst) から得ている助成金は、主としてドイツの大学教員と学生の渡航費と滞在費をカバーするもので、2011年から2013年までの3年間の国際交流に対するものである。また、フライブルク大学では来年以降の交流のためにDAADに申請しているところである。

***注3**

これまでも附属教育実践総合センター教員とセンターに内地留学中の現職教員（2011年4名、2012年5名）が訪独し、また2011年度はフライブルクカトリック大学からもハンベ教授 (Prof./Dr. R. Hampe; 心理療法・芸術療法専門) が三重大学を訪れ、教育学部ならびに教育学研究科の授業にて講演を行い、さらに学長のケスラー教授 (Prof./Dr. E. Kössler; 特別支援教育専門) が三重大学を訪れ、大学及び附属学校園教職員・学生・三重県内外教育関係者を対象に、講演会を開いた。

外国人特任教員

ご挨拶

特任教員（教育担当：天津師範大学実験班3期生引率教員） 馬曉菲

皆さん、こんにちは。馬曉菲と申します。今年の4月、天津師範大学からの学生19名を引き連れて三重大学へ参りました。時間の経つのは本当に速いものですね。来日してもう5ヶ月近くになりました。

今年桜の開花はより早かったそうです。桜は七日と言われるから来る前はお花見できるかどうかは心配していました。幸いなことに4月の初めごろ満開だったのです。2、3日経ったら大雨が降ってきて落ちてしまいました。待っていてくれたのかも知れませんが。到着翌日津市の借楽公園でお花見をしました。ひらひら落ちてくる花びらが舞いながらふいに湯のみに入ってきて、相当趣があると思います。

津の夏は天津より過ごしやすくだらうと思ったら、全然違います。今年の夏は異常の暑さですが、本当に天津に負けないぐらい暑いです。しかも湿気が多くて、蒸し暑いサウナ天気ですね。それに、空気がきれいだからほとんど曇りがなく空が透き通っていて日差しもけっこう強いです。UV対策を考えないと焼けられます。にもかかわらず、津は天津ほどの大都会ではありませんが、静かで空気も水もきれいで暮らしやすい町だと思います。

天津師範大学と三重大の間ではDD制度による共同教育プロジェクトが行われています。大学院レベルの合作はたくさんありますが、学部レベルは稀なほうです。2009年に第一期生21名が来日し、その中の6名はまだ教育学部で修士課程を勉強しています。2011年に第二期生22名が留学に来ていて、今年は19名です。来年正式生になり、年々に学生が来る予定です。学生たちは先生方の暖かいご指導の下で一生懸命に勉強していて、言葉だけでなく、日本文化、社会、歴史、経済についてもかなり勉強になりました。日本語ができ、日本のことが分かる中国人、また、中国語ができ、中国のことが分かる日本人が一人でも増えれば、お互いの理解も深まっていくと考えていて、共同教育プロジェクトはこれからもうまく行きますようにお祈りします。ありがとうございます。



外国人留学生

My Experience in Japan

Ivan Atanasov Dzhukelov



東大寺（奈良）の前で

Ivan 君は2012年度後期にスペインの Universitat Jaume I から迎えた最初の交換留学生の一人です。早瀬光秋教授（英語科）が受け入れ教員となり、国際交流センターや教育学部英語科で日本語、英文学等の授業を履修しました。また、多くの日本人学生や外国人学生と交流しました。

My name is Ivan Atanasov Dzhukelov and I am an exchange student from a university in Castellon, Spain, Universitat Jaume I. Nine months ago, I applied for a study program for one semester at Mie University. At that moment I did not realize that this would be one of the best decisions I would ever make.

I spent five months in Tsu. During these five months I tried to do as many things as possible. I met a lot of great people such as my teachers and many Japanese students as well as international students who later on became very good friends to me. I visited some of the most famous places in Japan: Tokyo, Osaka, Kyoto, etc. I even studied Japanese and I enjoyed it very much. In addition, I am determined to continue studying it by myself after I get back to Spain.

I guess the fact that I had a great time in Japan is not a surprise for anyone. Everybody knows something related to Japan for some reason. However, not everybody has a chance of living in Japan. This means that not everybody has a chance of immersing themselves in the Japanese lifestyle and in the rich Japanese culture. This is an experience that will stay with me at a totally different level, and I am indescribably happy and grateful that I have been given this chance and that I have been able to take full advantage of it.